

マルバシヤリンバイ

バラ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

Rhaphiolepis umbellata (Thunb.) Makino var. *integerrima* (Hook.et Arn.) Rehd.

国カテゴリー

該当なし

選定理由

県内における自生地が海岸の一部に限られている。(現況:R-)

形態

常緑低木で、高さ1~4m。葉が倒卵形のをマルバシヤリンバイ、狭倒卵形のをシヤリンバイ(タチシヤリンバイ)というが、両者の間には中間型があって区別しがたい。葉の形や葉縁の形状の違いなどの変異は連続的であって、種レベルでの区別は不可能であることが多くの研究者によって指摘されている。花は白色5弁、枝の先に円錐花序をつける。果実は径約1cmの球形。

国内分布

本州(宮城県・山形県以西)、四国、九州、小笠原、琉球。

県内分布

舳倉島・七ツ島植物小区系、外浦区、内浦区、中能登区、口能登区、加賀中央区。

生態など

花期は4~6月。果実は10~11月に黒紫色に熟す。庭園樹や緑化樹などとして広く植栽される。樹皮や材はタンニンを多く含むので染色に用いられ、大島紬の褐色はこれによる。

生育環境

主として海岸、よく日の当たる排水の良い場所を好む。

危険要因

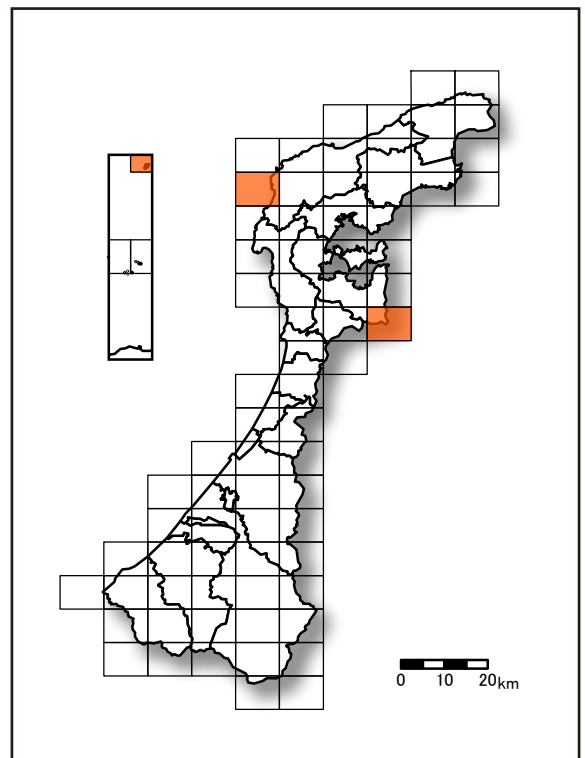
海岸開発、道路工事、園芸採取。

特記事項

近年、逸出と思われるようなものも見られるようになり、自生種との区別が難しくなっている。



林 二良・2006年11月1日・外浦



県内の分布